

事業者における特定個人情報の漏えい事案等が発生した場合の対応について  
(告示案)

特定個人情報保護委員会においては、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」（以下「ガイドライン」という。）を平成26年12月11日に策定・公表したところである。

ガイドラインの「第3-6 特定個人情報の漏えい事案等が発生した場合の対応」において、特定個人情報の漏えい事案等が発生した場合の対応については、別に定めるとしていたものであるが、事業者における「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」（平成25年法律第27号。以下「番号法」という。）違反又は番号法違反のおそれが発覚した場合の対応として、次のとおり定めることとする。なお、ガイドラインで用いられている用語については、その例による。

1. 事業者は、その取り扱う特定個人情報（委託を受けた者が取り扱うものを含む。以下同じ。）に関する番号法違反又は番号法違反のおそれが発覚した場合には、次の事項について必要な措置を講ずることが望ましい。
  - (1) 事業者内部における報告、応急対応  
責任ある立場の者に報告するとともに、被害拡大防止のための適切な措置を講じる。
  - (2) 事実調査、原因の究明  
事実関係を調査し、番号法違反又は番号法違反のおそれが把握できた場合には、その原因究明にあたる。
  - (3) 影響範囲の特定  
(2)で把握した事実関係による影響がどれほど及ぶのか、その範囲を特定する。
  - (4) 再発防止策の検討・実施  
(2)で究明した原因を踏まえ、再発防止策を検討し、速やかに実施する。
  - (5) 影響を受ける可能性のある本人への連絡等  
事案の内容等に応じて、二次被害の防止、類似事案の発生回避等の観点から、事実関係等について、速やかに、本人へ連絡し、又は本人が容易に知り得る状態に置く。
  - (6) 事実関係、再発防止策等の公表  
事案の内容等に応じて、二次被害の防止、類似事案の発生回避等の観点から、事実関係及び再発防止策等について、速やかに公表する。

2. 事業者は、その取り扱う特定個人情報に関する番号法違反又は番号法違反のおそれが発覚した場合には、事実関係及び再発防止策等について、次のとおり報告するよう努める。

(1) 報告の方法

ア 個人番号又は特定個人情報の漏えいなど主務大臣のガイドライン等において報告対象となる事案の場合

事業者が個人情報取扱事業者(注1)に当たる場合、当該事業者は主務大臣のガイドライン等の規定に従って報告することとする。この場合、報告を受けた主務大臣等(注2)又は主務大臣のガイドライン等に従い主務大臣等への報告に代えて報告を受けた「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号。以下「個人情報保護法」という。)第37条第1項に規定する認定個人情報保護団体は、委員会にその旨通知するものとする。

なお、これらの場合、主務大臣等の求めにより個人情報取扱事業者が直接委員会へ報告することとしても差し支えない。

(注1)個人情報取扱事業者以外の事業者が主務大臣のガイドライン等の規定に従う場合には、当該事業者を含む。

(注2)主務大臣のガイドライン等に報告先として規定されている個人情報保護法第51条、「個人情報の保護に関する法律施行令」(平成15年政令第507号)第11条の規定により事務を処理する地方公共団体の長等を含む。

イ 個人情報取扱事業者以外の事業者又は主務大臣が明らかでない個人情報取扱事業者における個人番号又は特定個人情報の漏えいなどの事案であって、報告する主務大臣等を直ちに特定できない場合

委員会に報告するものとする。

ウ その他、個人番号の利用制限違反など番号法固有の規定に関する事案等の場合

委員会に報告するものとする。

(2) 報告の時期

ア 速やかに報告するよう努める。

イ アにかかわらず、特定個人情報に関する重大事案(注)又はそのおそれに当たる場合には、直ちに委員会に第一報を報告するものとする。

(注)「重大事案」とは、①情報提供等事務を実施する者の情報提供ネットワークシステムから外部への情報漏えい等の場合(不正アクセス又は不正プログラムによるものを含む。)、②情報漏えい等があった特定個人情報の本人の数が101人以上である可能性が高い場合、

③不特定多数の人が閲覧できる状態になった場合、④従業員等が不正に持ち出したり利用したりした場合、⑤その他事業者において重大事案と判断される場合を指す。

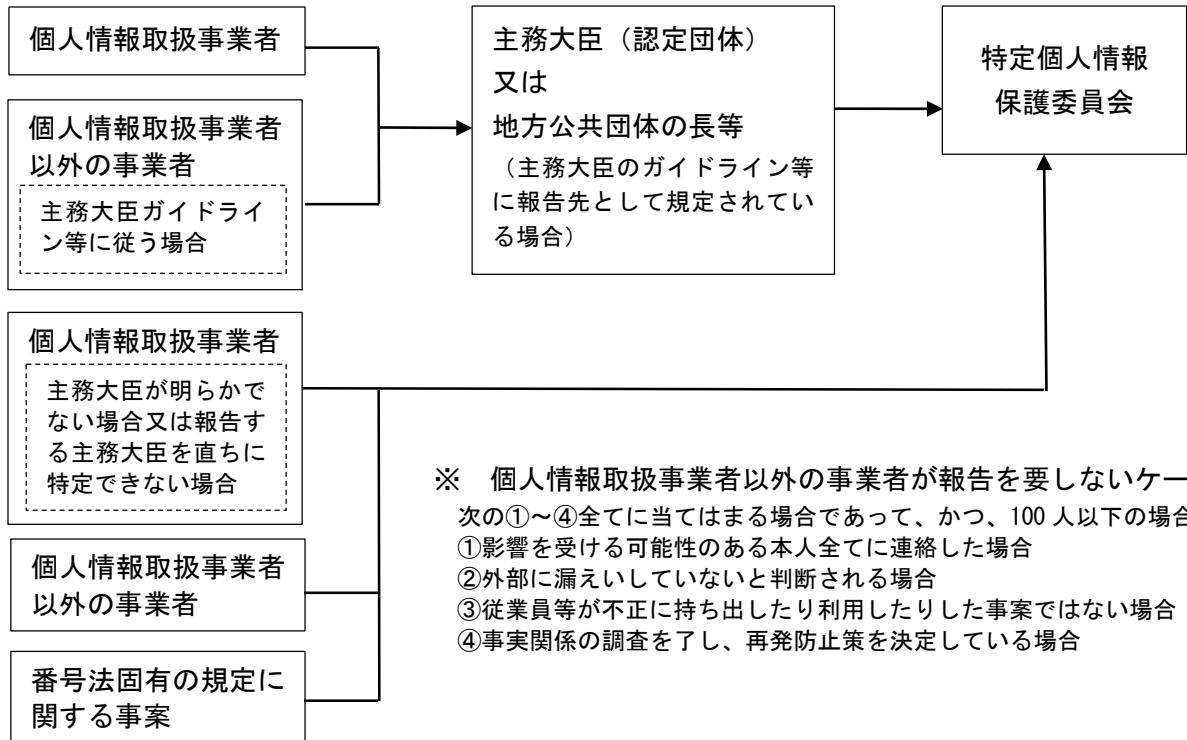
(3) 委員会への報告を要しない場合

個人情報取扱事業者以外の事業者にあつては、次の全てに当てはまる場合であつて、かつ、番号法違反又は番号法違反のおそれのある特定個人情報の本人の数が100人以下の場合には、委員会への報告を要しない。

- ①影響を受ける可能性のある本人全てに連絡した場合
- ②外部に漏えいしていないと判断される場合
- ③従業員等が不正に持ち出したり利用したりした事案ではない場合
- ④事実関係の調査を了し、再発防止策を決定している場合

事業者における特定個人情報の漏えい事案等が発生した場合の対応について  
(参考資料)

【事業者における報告の概念図】



注) 重大事案又はそのおそれが発覚した場合には直ちに委員会に第一報を報告する。